



40.9%

借入金のある世帯

2018年「家計の金融行動に関する世論調査」
[二人以上世帯調査] (金融広報中央委員会)

「敵の前より借金の前」(敵の前にいるよりもお金を借りた相手の前にいるほうが肩身が狭い) という諺ことわざもあるように、借入金はできるだけ背負いたくないものである。とはいえ、限られた収入と限られた人生の時間の中で大きな買い物をするには、借入金に頼らざるを得ないこともあるだろう。

2018年「家計の金融行動に関する世論調査」(金融広報中央委員会)によると、二人以上世帯で借入金のある世帯は40.9%。この調査は毎年実施されており、わずかな上下はあるものの、ほぼ横ばいで推移している。

約4割の世帯に借入金があるということだが、その中身は以下の通りとなっている(複数回答)。

- ① 住宅(土地を含む)の取得または増改築などの資金 65.8%
- ② 耐久消費財の購入資金 26.1%
- ③ 日常の生活資金 10.6%
- ④ こどもの教育、結婚資金 9.2%
- ⑤ 土地建物等の実物資産への投資資金 4.5%
- ⑥ 医療費や災害復旧資金 2.2%
- ⑦ 旅行、レジャーの資金 2.1%

やはり住宅や土地の取得・増改築時に、住宅ローンのような形で借入金を背負う世帯が最も多い。借入金額について見ても、平均額(借入金のある世帯のみ)は1474万円で、このうち住宅ローンが1350万円と9割の金額を占める。全世代を対象とした調査結果なので世代ごとのばらつきはあるが、住宅ローンがあれば定年までには返済しておきたいものだ。

24.0%

家計運営について「意識したことがない」世帯

2018年「家計の金融行動に関する世論調査」
[二人以上世帯調査] (金融広報中央委員会)

「お父さん、今月は家計が赤字だったから来月は少しお小遣いを減らしますね」「えーッ! そりゃないよ〜」。お父さんからすればたまったもんじやないだろうが、こんな会話があるということは、少なくとも家計運営は意識して行われているはずだ。

本誌読者は家計に関して「意識高い系」が多いと思われるので、「家計運営」は当然のことかもしれない。しかし、世間ではそうではない家庭も少なくない。2018年「家計の金融行動に関する世論調査」(金融広報中央委員会)によると、二人以上世帯で「家計運営を意識したことがない」と回答した世帯は24.0%にも上る。回答した世帯の実に4分の1近くが、家計運営を意識していないのである。

家計運営など気にしなくても困らないほど収入があるのかもしれないが、たととしても、やはりこれは気になる数字だ。「年収1000万円くらいの世帯が最もお金が貯まらない」という話も聞くが、貯金をするための第一歩は家計管理にある。毎月の収入がいくらで、支出はいくらなのか。さらに住居費、光熱費、食費、通信費、教育費と費目ごとにどれくらいかかっているか把握することから、家計のムダが見えてきて、貯金のための対策が打てるというものだ。何事でもそうだが、現状を把握していなければ、戦略は立てられない。

老後資金を心配する人は多い。だが、老後資金を貯めるにも、まずは現在の家計管理である。老後のお小遣いを確保するためにも、家計管理をしていない家庭は今日から始めることをオススメしたい。

(執筆/ライター 更田 沙良)